

広報

ただみ

8

2017 月号

No. 567
平成29年8月10日

只見

今月の表紙

今月の表紙は、6月17～18日に新潟駅から只見駅間で運行された臨時列車・快速「只見線山菜満喫号」です。

この翌日の19日には、福島県とJR東日本が、不通区間となっている会津川口駅から只見駅間を「鉄路」で復旧することで合意しました。

4年後には、このような臨時列車が会津若松方面からも只見駅に向かって来ることが期待されます。

(関連記事:P2～11)

<特集>

みんなの熱意で切り開いた只見線の未来… 2～11

「奥会津の戦国文化をさぐる」シンポジウム… 12～13

《News&flash》

豪雨で全町民に避難指示

サンドバレーコートオープン ほか…… 14～17

《町の話題》

商品づくり・販路開拓セミナー開催

奥羽越列藩同盟と加茂軍議講演会 ほか…18～21

特集

JR只見線「**鉄道復旧**」で正式合意!

みんなの熱意で切り開いた只見線の未来

2011(平成23)年7月の新潟・福島豪雨で不通となつているJR只見線の会津川口駅と只見駅間(27・6キロ)については、これまで「**鉄道復旧**」か「**バス代替輸送**」で話し合いが進められてきました。そのような中、6月19日に福島県とJR東日本は正式に「**鉄道**」で復旧させる基本合意書を締結し、2021年度中に運行を再開させる目標を発表しました。再開までの工期は3年の見込みで、来年2018年度早期に工事が始まる予定です。

このように只見線は鉄道での復旧合意となりましたが、これまでの道のりは決して平坦ではなく、長く遠く険しいものでした。

今回の特集では、只見線が「**鉄道復旧**」で合意するまでの経過や復旧を願う方々の活動について詳しくご紹介いたします。



▲只見線に手を振る只見保育所児童の皆さん(平成27年5月号 No.540 の表紙写真)

「只見線の年表」

- 1926(大正15)年
会津線 会津若松駅～会津坂下駅間 開業
- 1928(昭和3)年
会津線 会津坂下駅～会津柳津駅間 延伸開業
- 1941(昭和16)年
会津線 会津柳津駅～会津宮下駅間 延伸開業
- 1942(昭和17)年
只見線 新潟県小出駅～大白川駅間 開業
- 1956(昭和31)年
会津線 会津宮下駅～会津川口駅間 延伸開業
- 1957(昭和32)年
川口～田子倉間
田子倉ダム建設資材輸送専用鉄道 開通
- 1959(昭和34)年
田子倉ダム完成
- 1962(昭和37)年
川口～田子倉間
田子倉ダム建設資材輸送専用鉄道が国鉄に移管
- 1963(昭和38)年
会津線 会津川口駅～只見駅間 延伸開業
- 1971(昭和46)年
会津若松駅～小出駅間(135.2km)
会津線から分離し只見線として全線開業



▲豪雨災害前まで会津若松駅から只見駅まで運行していたイベント列車「SL会津只見号」

―只見線の役割―

JR只見線は、福島県会津若松市と新潟県魚沼市を全長135.2キロで結び、2市6町(8自治体)を繋ぐ路線です。これまで通院や通学など地域住民の足として、また観光路線として沿線地域を支えてきました。

日本有数の豪雪地帯を走る只見線は、並行して走る国道252号「六十里越雪わり街道」が冬期間通行止め(只見町と新潟県魚沼市間)となるため冬期間の唯一の交通手段としての役割があり、民営化の際の廃止対象路線から免れた経過があります。

―一躍有名になった只見線の出来事―

車社会の到来による只見線利用者の減少、また鉄道による貨物輸送からトラック輸送への転換も重なり、赤字ローカル線として厳しい運行を続けていました。しかし、この只見線が魅力ある観光路線として転機を迎える大きな出来事がありました。それが、平成13年

10月に全線開通30周年を記念して会津若松駅から只見

駅間を運行した「SL&DL会津只見号」です。この運行を機に只見線は、魅力的な路線として一躍有名になりました。その後、只見駅構内にある転車台が復活を遂げたことで、DL車の牽引が不要となり、「SL会津只見号」として毎年春と秋に定期的に臨時列車として運行されるようになっていきました。

「SL」をはじめ、「風つこ」などの臨時列車の運行が始まると、とても魅力的な路線として人気が出始め、「紅葉のきれいなローカル線全国1位」、「雪景色のきれいなローカル線第3位」などに選ばれ、観光客の利用者が増えていきました。最近では『旅と鉄道』2016年5月号の「好きなJRローカル線ランキング(東日本編)」で1位に選ばれたほか、中国版ツイッター(微博(ウェイボー))で「世界で最もロマンチックな鉄道」として取り上げられ、世界からも

注目を集めるようになりました。

―只見線の歴史―

只見線の歴史を振り返ると、只見線は福島県側を走る「会津線」と、新潟県側を走る「只見線」の2つの路線が結ばれ、現在の只見線となっています。

上記「只見線の年表」とおり、「会津線」は1926(大正15)年に会津若松駅から会津坂下駅間で開業し、その後会津柳津駅や会津宮下駅まで延伸し、1956(昭和31)年に会津宮下駅から会津川口駅間が開業しました。一方で新潟県側の「只見線」は1942(昭和17)年に小出駅から大白川駅まで開業しました。

その後、戦後の急増したエネルギー需要に応じたためダム建設専用の鉄道を敷くことになり、川口から只見を経てダム建設現場までは、田子倉ダム建設資材輸送専用鉄道として敷設され、1957(昭和32)年から1961(昭和36)年まで



▲当時、全線開通の出発式でテープカットを行う
田中通産大臣や木村県知事、菅家町長など



▲只見駅で只見線の一番列車を迎え開業を祝う人々



▶全線開通を取り上げた
当時の新聞
記事



ダム建設資材の輸送に使用
されました。田子倉ダムの
完成に伴い、1962(昭
和37)年にこの資材専用鉄
道が国鉄に移管され、翌年
の1963(昭和38)年に
会津川口駅から只見駅間で
延伸開業しました。そして、
1971(昭和46)年に大



▲会津川口駅～只見駅を運行する代行
バス(ラッピングバス)

白川駅から只見駅間が開業
し、「会津線」の会津若松駅
から只見駅間を同線から分
離し、「只見線」に統合。「只
見線」として会津若松駅か
ら小出駅まで全線開業しま
した。
| 2011(平成23)年
豪雨災害で不通に |
只見線全線開通40周年を
迎えた2011(平成23)
年7月23日、「只見線全線開
通40周年号」を会津若松か
ら只見間で運行し、多くの
方々が祝いました。しかし
その数日後、只見線のお祝
いムードを一転する大きな
出来事がありました。それが
新潟・福島豪雨による災
害です。新潟・福島豪雨は、

7月27日から30日にかけて
の記録的な集中豪雨で、新
潟県中越・下越地方や福島
県会津地方が大きな被害を
受けました。只見町の4日
間の累積降雨量は711.
5ミリで、7月の月降水量
平均値(282.4ミリ)
の約2倍を記録しました。
町の被害は全壊30、大規模
半壊25、半壊135、床上
浸水127(非住家舎)と、
多くの被害を受けました。
只見線もこの災害により
甚大な被害を受け、当初の
被災区間は会津坂下駅から
小出駅間の広範囲に及びま
した。特に会津川口駅から
只見駅間は、3橋梁の橋げ
た流失のほか、橋梁冠水や
流木堆積、護岸洗掘、土砂
流入などの大きな被害を受
けました。その後、復旧工
事が完了した区間から順次
運転を再開し、2012(平
成24)年10月に、只見駅か
ら大白川駅間の運転が再開
されましたが、会津川口駅
から只見駅間は鉄路での復
旧は行われず、代行バスに
よる運行のまま現在に至つ



▲第6只見川橋梁(金山町)【橋げた流失】
(写真提供/会津ヨシ)



▲第5只見川橋梁(金山町)【橋げた流失】
(写真提供/会津ヨシ)



▲第8只見川橋梁(只見町)【冠水や流木の堆積】



▲第7只見川橋梁(金山町)【橋げた流失】

——全線復旧に向けた 町内の取り組み——

只見線は、地域住民の生活路線や観光路線として欠かせない交通機関であり、町内では、全線復旧に向けて様々な取り組みが行われています。

① 鉄道軌道整備法の

早期改正の要望

現在の法律では、鉄道会社が赤字である場合に限り災害による復旧費用の4分の1を国が補助します。しかし、只見線を運行するJR東日本が黒字会社のため、この法律が該当しません。

よって、この法律を路線単体で赤字である場合に3分の1の補助が出来るように法改正するため「赤字ローカル線の災害復旧等を支援する議員連盟」の方々に要望活動を行っています。

② つながれつなぐ

只見線応援事業

町では、町民の只見線の利用機会の向上と、愛着を図るために、只見線を利用する町内の団体などに最高

10万円を補助する「つながれつなぐ只見線応援事業」を行い、利用促進を図っています。平成28年度は、49団体約1,747名の方が只見線を利用しました。

③ 只見線愛好会と 支援する会

町内の有志により発足した「JR只見線愛好会」は、「つながれつなぐ只見線応援事業」を活用して旅行を企画し、只見線を利用した旅を楽しんでいます。

また、只見町商工会に事務局を置き、愛好会メンバーや地域住民で組織する「JR只見線の復旧及び復興を支援する会」は、昨年の4月に「JR只見線復旧復興町民の集い」を開催しました。

只見町民をはじめ金山町や新潟県魚沼市など沿線住民約400名が集まり、「日本の宝である只見線の日」も早い全線復旧を目指し、全国に広く支援を呼びかける「などが盛り込まれた決議文が採択され、積極的な活動を実施しています。



(今年7月で運行終了)



▲【ラッピング事業】会津若松～会津川口間運行の「ユネスコエコパーク列車」(上)と小出～只見間運行の「縁結び列車」(下)



▲昨年4月に季の郷湯ら里で行われた「JR只見線復旧復興町民の集い」で決議文を読み上げる町民の方々



▲大白川～只見間と会津川口～只見間で行われたサイクルトレイン



◀この只見線縁結びグッズのデザインに一筆書きで描かれた箇所があり、その中にはメッセージが隠されています。触れる機会がある方は是非探してみてください

④ JR只見線 利用促進実行委員会

利用促進実行委員会

町や町内団体などで組織する「JR只見線利用促進実行委員会」は、只見線のPRや利用促進のため様々な事業に取り組んでいます。

只見線車両フルラッピング事業では、只見線を走る車両や代行バスにラッピングを実施し、PRを行ってききました。平成26年には、会津若松駅から会津川口駅間を走る車両と会津川口駅から只見駅間を走る代行バスに町のキャラクター「ブナりん」などをデザインした「ユネスコエコパーク号」を企画しました。平成27年からは、小出駅から只見駅間を走る車両に、只見町と魚沼市とのつながり（縁）を表し、町の自然や食、「三石神社」の縁結びなどを一筆書きで描いた「縁結び列車」が運行しています。

また、只見線の新たな利活用を模索する試みとして平成27年にサイクルトレイン事業を実施し、会津若松駅から会津川口駅間を自転車の積込みが可能な臨時列車を利用し、会津川口駅から只見駅、大白川駅から只見駅間を自転車走破する事業を行いました。

只見線啓発事業では、シーリングやコースターなどのグッズを製作し、コースターは町内の旅館などに配り、コップ受けとして活用いただいています。

そして、鉄道ファンで知られる俳優「六角精児」さんと共同で実施する各種イベントは、只見線の復興に向け大きな力となっています。

第1弾は、2014（平成26）年7月に、東京大手町サンケイビルで、同じ鉄道ファンであるお笑い芸人「ダーリンハニー吉川」と共に「只見線トークイベント」を開催しました。

その後、第2弾として2016（平成28）年6月には、六角精児バンドメンバーによる「只見線縁結びライブ」を只見駅前広場で開催し、只見線応援ソングの新曲「只見線のうた」を



▲【第3弾】(7月15日)六角精児バンドの皆さんと宏菜さんの熱い演奏が披露された「『只見線のうた』発売記念ライブ」



▲六角精児さんや菅家町長、鈴木副知事など沿線地域から多くの方が参加した「只見線熱血対談会」



▲【第2弾】只見駅前「只見線縁結びライブ」



▲【第1弾】東京大手町「トークイベント」

初披露しました。

その後この曲がCD発売となり、今年7月14日には第3弾として、六角精児さんの「只見線熱血対談会」、翌日の15日は「只見線のうた」発売記念ライブin只見を季の郷湯ら里で開催しました。

14日の六角精児さんとの「只見線熱血対談会」では、菅家町長や鈴木福島県副知事をはじめ町内外の只見線を応援する関係者16名が出席し、只見線への思いや10年後の只見線についてなどをテーマに活発な意見交換が行われました。その中で六角精児さんは「今回の只見線の復旧は、全国で新しいモデルケースとなる。利用者を増やすためには、失敗してもぶれずに何度もチャレンジすることが重要。」と話され、出席者と共に只見線の魅力やアイデアなどについて熱く語りました。

また、「『只見線のうた』発売記念ライブin只見」では、町内外から約200名

が来場し、東京の下北沢を中心にライブ活動をするシナガールソングライター「宏菜」さんと、六角精児バンドの皆さんによる熱いライブが行われました。宏菜さんは、心に響く透き通った歌声に乗せて、初披露の只見線応援ソング「只見線に乗ろうよ」など3曲を歌い上げました。また六角精児バンドは「只見線のうた」の他に多数の曲を披露し、来場者からはアンコールの大きな拍手が送られ、ラストステージでは、六角精児バンドと宏菜さんと来場者が「只見線のうた」を一緒に歌い、大盛況のうちに終了となりました。

このように、JR只見線利用促進実行委員会では、只見線利用の促進に向け、多くの取り組みにチャレンジし、多くの方々に見見線の魅力を伝え、そして只見線ファンを増やす活動を続けていきます。

⑤ 只見線を応援する方々

只見線への応援は、町内をはじめ沿線町村などでも



上／6年間列車がなくなった会津蒲生駅
下／廃線跡のように草に覆われた線路



▲利用者の減少により2013年3月のダイヤ改正で廃止となった田子倉駅



▲見えなくなるまで手を振り続けている



▲田子倉湖を走る只見線

様々な活動が行われています。町内では、只見町商工会や青年部、只見町観光まちづくり協会、サトノワカンパニー、合同会社ねっかなど多くの団体や個人の方々が、利活用を考えるワークショップの参加や只見線関連商品の開発、インターネットでの情報発信などを行っています。

応援活動をしています。その他にも、只見線応援チャリティーショーの開催やJR東日本労働組合の方々との交流、鉄道風景画家「松本忠」さんとの共同商品の発売で連携事業を行っています。

また、只見線沿線元気会議や只見線なんとか会の方々が只見線全線復旧に向け日々

復旧に向けた県と沿線市町村の連携と経過

②手を振ろう条例の制定

③只見線復興推進会議

さらに沿線町村では奥会津振興センター、金山町の観光物産協会や只見線つなぎ隊、魚沼市のだんだんどうも只見線沿線元気会議や只見線なんとか会の方々が只見線全線復旧に向け日々

①JR只見線復旧復興基金

②手を振ろう条例の制定

③只見線復興推進会議

▶右から六角精児バンドの「只見線のうた」CD、松本忠さんが描いたラベルが貼られたねっか焼酎と花泉ワンカップ、只見線縁結びやキハちゃんシール、只見線コースター





▲手を振ろう条例を毎日実践する皆さん

只見線復興推進会議検討会」が開かれ、県と沿線7市町（会津若松市、会津美里町、会津坂下町、柳津町、三島町、金山町、只見町）が参加し、JR東日本と国土交通省がオブザーバーとして加わり協議が行われました。議論が繰り返されたこの検討会の中で、只見線全線復旧へ向けた大きな方向性が2つ示されました。一つは、復旧に係る費用が約81億円になること、もう一つが「上下分離方式」での提案が示されたことです。

④上下分離方式とは

この「上下分離方式」とは、県が下部にあたる鉄道施設や土地などを保有し、JR東日本が上部にあたる列車を運行し、それぞれが役割を担う方式のことです。路線や駅などの鉄道施設は、JR東日本が被災区間を復旧した後、県へ無償譲渡し、県は鉄道施設の維持管理をJRに委託するようになります。

この提案は、県と沿線市町村にとっては負担を伴う

厳しい条件ではありましたが、「バス転換」を示していたJR東日本から、初めて「鉄道復旧」での条件が提示されました。県と沿線市町村は、この条件を前向きに捉え、「上下分離方式」での復旧方針を固めました。

⑤只見線復旧で合意

本年6月19日、県とJR東日本は、不通区間の会津川口～只見駅間を鉄路で復旧し「上下分離方式」で運営することで合意しました。2021年度中の全線再開を目指し、来年度早期に工事が始まる予定です。

⑥只見線の復旧費負担

災害による不通区間の会津川口～只見駅間の復旧費については、約81億円と試算されています。上下分離方式が決定し、3分の1にあたる27億円をJR東日本が負担分することが決定しています。残りの54億円のうち、鉄道軌道整備法の改正が整えば、国から3分の1にあたる27億円が補助されることとなるため、その改正を待ち望んでいるとこ

ろです。残りの負担分については、県と会津17市町村による積立金「只見線復旧復興基金」の21億円や、寄付金などを活用して財源の確保に努めることとしています。

⑦上下分離方式による

沿線市町村の運営費負担 「上下分離方式」での運営は、地元の費用負担がかかります。維持管理に要する運営費は年間約2億1千万円と試算されており、県と会津17市町村は今年3月に、県が7割、市町村が3割を負担する確認書を締結しました。

只見町の負担額は年間約1千9百万円で、今年3月に基金の積み立てを開始し、将来に向けた対応を行っています。

―只見線の課題―

不通区間会津川口駅～只見駅間は、被災前の2010年度で見ると、1日の利用者は平均49名で、列車運行にかかる経費2億8千万に対し、年間運賃収入が500万円



Voice ~全線再開通後の只見線について~



只見町長 菅家 三雄

只見線の復旧を知ったとき、地域の方々と一緒に喜びました。そして復旧報道の中でJRも只見線利活用のために協力する旨の記事を拝見し、2重の喜びを感じました。県、地元、JRの3者が一体となり利活用を進めることは、災害前の只見線にもない大きな武器となります。これからは団塊世代が車から列車(電車)に切り換わる時代。そこで誘客を図るために旅行会社向けのエクスカッション(体験型の現地見学会)を実施するなど新たな取り組みを進め、県外からの誘客を図りたい。あわせて町内の既存資源を活用した新たな観光を考えていかなければなりません。例えば、只見線沿いの景観づくりや撮影スポットの整備、インバウンド(外国人が日本へ訪れてくる旅行)対策を行い、町全体の体制を整えていきたいです。将来的には、鉄道整備軌道法が改正され、全国のローカル線が地元負担の少ない形で維持できるような環境になってほしいと考えます。

今回の復旧は、厳しい財政状況の中、県も沿線市町村もJRも大変大きな英断をしたと感じ、身の引き締まる思いです。只見線はローカル鉄道の生命線として、上下分離方式での運営を成功させなくてはいけない。そのために、JR只見線愛好会としての「乗る運動」の継続はもちろんのこと、沿線市町村と連携した組織化を図り、「乗る運動」の広大な連携プレーを行っていきたくです。また、様々な企画が実施できるよう体制整備を行って欲しいと思います。将来的には、只見線の上下分離方式が成功し、ローカル線を活用したむらづくりの成功事例として多くの視察を受入れ、そして上下分離方式が解消され今まで通りJRが運行を続け、豊かな只見町になることを期待しています。



JR只見線愛好会
会長 目黒 彰一さん



只見町観光まちづくり協会
事務局長 酒井 治子さん

今回の復旧を受け、うれしい半面プレッシャーも感じています。再開通するまでの4年間で、只見線に乗ってもらう仕組み作りと、乗らない方々でも只見線の応援に関われるような「只見線グッズの開発」などを行いながら準備を進めていきたいです。また、只見線は走っていない時間が長いので、その時間の活用を考えていきたいです。将来的には、只見線が走る地域に人が住み、幸せに暮らしていけるよう、乗る人も乗らない人にとっても、只見線が風景の一部、日常の一部になっているような地域づくりを目指したいです。個人的には商品開発や事業の企画、イベント列車を走らせたりするような、JRと福島県の間をつなぐ役割を持った地域の会社があるといいなと考えています。

— 今後の取り組み —

(2009年度)という赤字区間でした。復旧後、上下分離方式での運営による多額の費用を負担する県や沿線自治体にとって、利用客を増やし交流人口の拡大を図り地域の経済を活性化させることが大きな課題となっています。

2021年度より鉄道による運行が再開する只見線の今後の活用方法については、現在様々な検討がされていますが、少子高齢化の加速や生活スタイルの変化が著しい現代では、只見線の生活路線としての活用だけでは運営が難しい状況にあります。そこで沿線地域では、只見線をひとつの地域ブランドとして捉え、どのように交流人口を増加させ、観光路線としての魅力を高め、いくかが重要となります。県と沿線町村は、「只見線利活用プロジェクトチーム」を発足し、利活用に向けたワークショップに取り組み、より効果的な対策を検討しています。また、町では平

成28年度より「ふるさと納税」による只見線の復旧・復興に向けた財源確保も既に始めています。

—最後に—

今回、只見線の復旧が決まり、これまで活動されてきた方々の努力が報われた形となりました。しかし、喜んでばかりはいられない大きな課題が目の前にあります。只見線利用者を増やし、どのように地域経済に結び付けていくかが重要になっています。只見線の廃線は地域の衰退につながるという危機感から、県や沿線地域が連携して、地域の衰退を守ろうとしました。今後は、この只見線を活用して全国や世界各国から多くの只見線ファンが訪れてくれるよう取り組んでいかなければなりません。六角精児さんが伝えた「失敗してもぶれずに何度もチャレンジ」することが重要であり、これからが本当のスタートです。

復旧に向け、これからが本当のスタート チャレンジを続けることが重要（六角精児）



歴史研究の成果を紹介

シンポジウム「奥会津の戦国文化をさぐる」開催

6月25日、国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）の主催と只見町教育委員会の共催で、只見町をはじめとする奥会津の中世を探るシンポジウムが季の郷湯ら里で開催され、町内外から約100名が来場しました。只見町を舞台にした最新の調査・研究にもとづき、町の歴史と文化の厚みが新しい視点によって解明されましたのでご紹介いたします。

戦国文化をさぐる



▲中世以来の人々の生活を新しい視点と方法で掘り起こしたシンポジウム

— 1部 —

このシンポジウムは地域文化の保存・継承・発信を東北および四国地方を中心に考えていこうとする国立歴史民俗博物館の共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」の一環として開催されました。同博物館では町教育委員会と共同で、只見町をはじめとする奥会津の歴史文化を、様々な角度から調査・研究し、それらをどのように保存・発信して、地域の資源として活用していけばよいのかを考えてきました。今回のシンポジウムはそうした成果を持ち寄り、地域住民の皆さんと研究者と一緒に地域の歴史文化について考えようとしたものです。

① 渡部賢史さんの報告

最初の報告は只見町教育委員会の渡部

賢史さんによる「城館跡から中世を考

るく考古資料から」と題したもので、最初に町内における文化財調査の概要が示されました。特に中世の城館跡がどれくらい把握されているかについて確認が行われ、さらに黒谷地区の黒谷館跡の発掘調査の成果物、出土品が紹介され、珍しい青磁やうるし塗りの椀、サイコロなどが発見されたことが報告されました。これらは後の時代の記録史料からは漠然としか分からなかった中世の只見の生活とそれを支える人や物の行き来の様子を具体的に知る手がかりになることが述べられ、土の中に埋もれていた歴史の解明が始まったことが説明されました。

② 三上喜孝さんの報告

2番目の報告は、国立歴史民俗博物館の三上喜孝さんの「仏堂の落書きにみる中世びとの交流・信仰」というものでした。まず、これまで取り組んできた山形県や新潟県における中世に遡る^{さかのぼる}仏堂の落書き（墨書）の様子が紹介され、こ



▲黒谷館跡の発掘現場(右)と黒谷館跡から発見されたうるし塗りの椀(左上)とサイコロ(左下)



▲只見町で発見された「神皇正統記」の写本



▲中世に遡る多くの落書きが残る梁取地区の成法寺観音堂



シンポジウム 奥会津の単

れらには地域を越えて共通性が見いだせることが述べられました。次いで梁取地区の成法寺の観音堂にもそれと同じ種類の落書きが大量に遺されていることが判明し、これらには会津をはじめとする日本列島各地の地名が見いだせるほか、絵も描かれ、これまでに発見されてきた落書きに数多くの新しい情報を追加することができると新発見であることが述べられました。中世の只見地方に多くの人々が観音信仰をきっかけに往来し、神仏に対する様々な祈願をしていたことが分かったのです。これまで古文書や記録にわずかししか記されていなかった中世の人々の姿が落書きという意外な視点から解明できることが示されました。

③久野俊彦さんの報告

3番目の報告は、東洋大学の久野俊彦さんの「中世書物からさぐる知と文化のネットワーク」というもので、まず国の指定文化財になっている只見の民具の調査の過程で、本(書物)にも注意が払われてきたことが優れた着眼であったと述べられました。そして、ホウイン(法印)の家や旧家、寺院などに伝わってきた本の最後の部分(奥書)に注目すると、中世に真言宗の高度な学問とそれに関する知識が只見地方に伝えられていたことが分かること、さらに珍しい『神皇正統記』の写本が中世から近代にかけて長く保存され、只見で活用されながら伝わってきたことが明らかになりました。

かになったと報告されました。生活の中で繰り返し用いられる道具として本を捉え、その内容や体裁、伝わってきた理由などを検討することで、中世に遡る文化の伝統が只見町にあったことが明らかになりました。

高橋充さんのコメント

最後に、福島県をはじめ南奥羽の中世史の専門家である福島県立博物館の高橋充さんがコメントを述べられました。3名の報告は、中世というこれまで史料がごくわずかしかなかった時代における新しい資料の発掘に基づくものであること、その内容は政治史よりも文化史や生活史にかかわる成果であることが指摘され、有名人や為政者ではなく、一般の人々の生活や歴史が分かるということを評価されました。奥会津、只見町にも多くの人々が行き交い、様々な文化が運ばれていたことを知る手がかりが得られたことは町の文化とその流れを新しい角度から評価していくことにつながります。

最後に

今回のシンポジウムでは只見町だけではなく、類似の方法で全国各地の歴史文化を掘り起こしてその価値や意義を地域の財産として活用し、後世に伝えていくことが可能であることが強調されました。このような先進的な学術研究が町内を舞台に展開していることを、只見町の誇りとして意識していきたいものです。

1時間の雨量が観測史上最大の88・5ミリ 大雨で只見町民4333名に避難指示



▲大量の土砂と倒木が民家を襲った土砂災害(布沢地区)

7月18日、1時間の雨量が観測史上最大となる88・5ミリを記録した豪雨が只見町を襲い、町内各地で冠水や土砂災害などの被害が発生しました。6年前の新潟・福島豪雨を思い出すような激しい大雨となり、人々を震撼させました。

― 全町に避難指示 ―

同日午前2時30分頃から降り出した雨は、急激に雨あしを強め、午前2時50分に大雨警報、同58分に土砂災害警戒情報、午前3時40分に洪水警報が発表されました。その後、観測史上最大となる1時間あたりの雨量88・5ミリの雨量を記録し、河川の氾濫や土砂災害の発生が予想されたことから、午前4時40分に災害対策本部と水防本部を設置、午前4時50分に町内全域1866世帯4333名に避難指示を発令しました。避

難指示を受け、町民の方々は各振興センターや各地区の集会施設などに避難し、総数137名の方が避難しました。

また、町内の4小中学校も休校となり、只見高校も課外授業や部活動などが中止となりました。

― 迅速な対応 ―

水防本部の設置により、町内では消防団員による迅速な水防活動が行われました。雨あしの強い中、避難誘導や土砂の撤去、浸水しそうな民家には土のうを積み、ポンプで水を排出するなどの対応を行い、被害を最小限にとどめました。

その他にも、関係機関の連携による要援護者への支援や、避難所支援などが行われ、豪雨による人的被害はありませんでした。

― 豪雨による甚大な被害 ―



▲流失した林道



▲大雨のため叶津川が氾濫し流出した国道(叶津地区)



▲土砂が流れ込んだ水田



▲道路が冠水した田中地区



◆豪雨による被害状況速報(7月26日現在)

- (1)人的被害 なし
- (2)建物被害
 - ・床下浸水 70棟
 - ・土砂崩れによる一部損壊 3棟
- (3)交通状況
 - ・国道・県道 通行止め箇所全解除
 - ・町道 路体、路側決壊等 全21箇所
 - ・林道(調査中)路体決壊等 全70箇所
 - ・鉄道 運行再開
 - ・雪んこタクシー 運行再開
- (4)農地・農業用施設(調査中)
 - ・水田、畑地、水路 全95箇所
- (5)河川被害 12箇所
- (6)避難者の状況 避難者総数 137名
- (7)ライフラインの状況
 - ・水道、固定電話、電気 復旧済
 - ・携帯電話 布沢地区に移動基地局を設置
- (8)観光施設等被害(調査中)
 - ・旅行村敷地内土砂流出等
 - ・登山道等仮設橋梁流出 3箇所
 - ・登山道崩落 各所

今回の大雨により、建物では床下浸水70棟、土砂崩れによる家屋の一部損壊3棟など多くの被害を受け、町道や林道などの道路は路面が流されたり土砂が流出したりと大きな被害を受けています。さらに農地や農業用施設では、冠水や土砂流入などが発生し、トマトや水稲など多くの農作物に大きな被害がでており、今後の収穫への影響が懸念されます。

ライフラインでは断水や停電、電話の不通により一部の地域で使用できないことがありましたが、いずれも復旧しております。また、固定及び

携帯電話が不通となった布沢地区では、避難所と災害対策本部の連絡にWi-Fi無線が有効に活用されました。観光施設でも旅行村の土砂流出や登山道の崩落などの被害が発生し、観光客などの受け入れに影響がでています。

— 大きな被害を受け —

今回の大雨の影響により町内各所で様々な被害が発生しております。今後も大雨が降る可能性もあるため、気象予報には十分注意してください。

そして、この度の大雨で被災された皆さまへ、心よりお見舞い申し上げます。

只見ユネスコエコパークの豊かな緑の中でビーチバレー

県内唯一の常設コート「ビーチバレーコート」がオープン!

まちづくりの一環として亀岡地区の多目的活性化広場内(トレーラーハウス前)に整備を進めてきた「ビーチバレーコート」が7月9日にオープンし、記念式典が行われました。

「海のない山間部でビーチバレー」という特色を持つこのコートは、県内唯一の常設コートであり、ビーチバレーボール競技は、今年の愛媛国体から国体正式種目として内定しており、2020年東京オリンピックや国体を目指す選手の合宿の他、公式大会の誘致を目指していきます。

またコートの砂は、只見川の滝ダム上流に堆積した砂を活用すること



▲関係者によるテープカットでオープンしたコート(コートは4面、各面16m×8mの広さで公式戦にも対応)

により、町の地域資源を活かした施設となっており、5月に同敷地内にオープンしたトレーラーハウスとの相乗効果を狙います。

当日行われた式典では、菅家町長が「トレーラーハウスと共に賑わい創出の拠点としたい」と挨拶し、関係者によるテープカットでオープンしました。式典後には、元アメリカ代表のセッターでバルセロナ五輪銅メダリストの「ヨコ・ゼッターランド」さんのゲストトークや、ビーチバレー国内トップクラス8名のアスリートによるエキシビジョンマッチが行われ、レベルの高い試合に会場からは歓声が上がっていました。



▲オープンしたコートで熱戦を繰り広げる選手の皆さん

伝承産品ブランド化支援事業

平成28年度の成果を発表

只見町に伝わる伝統技術の継承と地域の資源や農産物を使った産業振興を目的とした「自然首都・只見」伝承産品ブランド化支援事業の平成28年度成果発表会が7月5日、役場本庁で行われ事業者などが参加しました。

このブランドは、町内産の原材料及び伝統的な技術を使用していることなどの要件を満たした商品が認定を受け、登録されています。

今回の発表会では、栗の花から採集した「はちみつ」や、ブナなどの草木で染めた「只見の彩り草木染」などが発表されました。今後町内の観光施設などの売店で販売される予定です。



▲認証を受けた商品を手にする事業者の皆さんと橋本副町長(左から3番目)

朝日小只見中地域住民が参加

「地域合同防災訓練」を開催

7月5日、朝日小学校と只見中学校が主催する「朝日地区地域合同防災訓練」が行われ、同小中学校や黒谷(町、蓮の原、沖)・上福井地区の方々約200名が参加しました。

大雨による避難を想定した訓練では、午前7時50分の只見中への避難放送を受け、参加者は一斉に自宅から避難を開始し、避難する際には中学生が避難場所への誘導を行いました。避難完了後は南会津広域消防署只見出張所や町赤十字奉仕団などの協力のもと、各会場で防災教育学習、炊き出し訓練、防災グッズ使用体験、救急処置体験などが行われ、参加者は防災への知識を高めました。



▲消防署職員の方々から簡易担架の作成方法を学ぶ小中学生の皆さん

明和自治振興会が「金賞」を受賞 ふくしま地方創生フォーラム

7月9日、県主催の「ふくしま地方創生フォーラム」が福島市内で開かれ、只見町の明和自治振興会が移住アイデアコンテストに参加し、11団体の中から大賞の「金賞」を手に入れました。

「T.A.Bankの家」で始める暮らしをテーマに、町が推進する南郷トマトや米などの新規就農者を募り、空き家バンクに登録している旧旅館をシェアハウスとして活用する「仕事と暮らしを繋ぐ家」といったアイデアについて、地域おこし協力隊の大竹友香さんが発表しました。今後も、空き家の利活用に関わる活動に取り組んでいくこととしています。



▲金賞を受賞した発表者の空家活用促進隊・大竹友香さん（左から3番目）

町の教育振興基本計画

「検討委員会」を開催

7月28日、教育委員会が設置する「只見町教育振興基本計画検討委員会」の第1回目が開催されました。これは町の「第七次只見町振興計画」に基づく教育分野の個別計画「只見町教育振興基本計画」の策定にあたり、教育関係者の意見を反映させるために開かれるものです。委員会は町内の保育所から中学校までの関係者、社会教育委員、福島大学、県立博物館や一般公募の方々と構成されています。

第1回目は委員への委嘱状交付の後、グループワークなどが行われ、計画に盛り込む内容を協議しました。今後10月までに計画をまとめ、来年度から実施できるように進めていく予定です。



▲委員長に明和小学校の渡部早苗校長が就任した検討委員会

町の小学校の未来を考える

「第2回在り方検討会」を開催

7月10日、「第2回只見町立小学校の在り方検討懇談会」が朝日振興センターで開かれました。

今回は、現在の小学校について思っていることや感じていることについてグループワークを行いました。少人数での学校については、「学力差への対応がしつかりできるが多様な考え方に触れにくい」「人間関係が親密になりやすい」「反面、「固定された関係になりやすい」との意見が出され、学校と地域については、「地区と一体となって育てられている」「集落に人が少なくなり行事の継続が心配」などの意見が出されました。懇談会では、今年度中に意見を集約し、取りまとめていきます。



▲意見を発表する委員の皆さん

プールの事故から子どもを守る

「応急手当講習会」を開催

7月11日、南会津広域消防署只見出張所の方々に講師を迎え、「応急手当講習会」が朝日振興センターで開かれ、町内の小中学校の保護者や教職員など15名が参加しました。

この講習会は、夏休み中のプールでの事故を未然に防ぎ、万一の児童・生徒の異変に対して最善の応急処置を施せるようにすることを目的に毎年行われています。

当日は、3班に分かれて実技講習を実施し、只見出張所の方々がそれぞれの班に付き、ポイントを押さえた指導を行いました。受講者の方々は、応急処置の基本を身につけようと全員が熱心に取り組んでいました。



▲心臓マッサージの方法を学ぶ参加者の皆さん

只見の資源を活かす

「商品づくり・販路開拓セミナー」を開催

7月5日、只者じゃないブランド推進委員会が主催する「商品づくり・販路開拓セミナー」が只見振興センターで開かれ、事業者約20名が参加しました。

セミナーでは、新商品の企画など全国で活躍するビジネスプロデューサーの内田研一氏を講師に迎え、ブランドとは「信用」であり「約束」を守り続けることと説明され、他地域のブランド化事例を交えて講演されました。また、只見町が狙うべき方向性や素材から考える商品・サービスづくりの方法が伝えられ、参加者は今後の商品づくりのために熱心に聞き入っていました。



▲ブランドは一貫性を守り、つくりあげていくことが重要と説く内田研一氏



◀おもちゃすくいを楽しむ親子連れの皆さん

新しい催しで賑わう

「亀岡トレーラーハウス祭り」開催

7月8日、朝日地域づくり委員会が主催する「亀岡トレーラーハウス祭り」が亀岡多目的活性化広場内で開かれ、縁日(まつり)とグランドゴルフ大会が行われました。トレーラーハウス前で催された縁日は、「綿あめ」や「おもちゃすくい」、「くじ引き」などが子どもたちの人気を集め、トレーラーハウスと共に賑わいを見せていました。

また、サッカー場で行われたグランドゴルフ大会には約50名が参加し、熱戦を勝ち抜いた1～5位入賞者には記念品が贈られました。



▶白熱したグランドゴルフ大会

最新技術の普及を目指す

「ドローン体験教室」開催

7月22日、ドローンを活用し自分の職業能力などを高め、新しい技術の普及を目指した「ドローン体験教室(教育委員会主催)」が町下体育館で開かれ、小学生から大人まで約20名が参加しました。

教室は、これまでドローンのパイロット約100名を育成してきた(株)スペースワンの協力により行われ、大・小2種類のドローン操作の体験をしました。参加者はドローンの操作だけではなく、スマートフォンと連動した空撮などを体験し、技術を磨くことができました。町でも既に災害や捜索などで活用しており、今後自然調査などにも活用していく予定です。



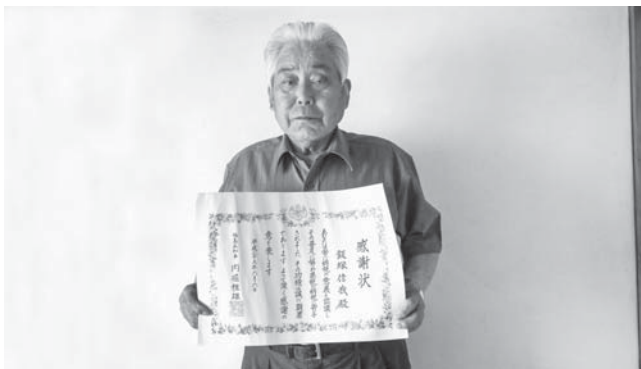
▲外で行われたデモ飛行で参加者を空撮した写真



◀体育館内でドローンを操作する参加者

大倉中地納税貯蓄組合長に 知事から感謝状

6月6日、福島県庁で開催された「第51回福島県納税貯蓄組合連合会定時総会」において、大倉中地納税貯蓄組合長の飯塚信哉さんが納税功労者に決定し、知事から感謝状が贈られました。飯塚さんは、17年に渡り大倉中地納税貯蓄組合長を務め、平成27年度には南会津地方振興局長からも納税功労者として感謝状を受賞していることから今回選ばれました。今後も、大倉中地納税貯蓄組合長としての活躍が期待されます。



▲知事感謝状を手にする大倉中地納税貯蓄組合長の飯塚さん

身近な野草の効能・調理方法を学ぶ ノラサン「野草教室」開催

7月8日、身近な野草で健康づくりを目指す団体ノラサンが主催する「野草教室」が只見振興センターで開催され、町民19名が参加しました。講師に日本の薬草の著者である貝津好孝先生を迎え、野草の効能・調理方法などを学びました。町内の草むらや林道でツルニンジンやユキノシタなど16種類を採取し、酢の物や天ぷらなどに調理して試食しました。参加者からは「身近な野草で作った料理が思ったより食べやすく美味しかった」などの感想が聞かれました。



▲食べられる野草の判別や効能、調理方法を伝える貝津先生（左前）

只見町と魚沼市で清掃ボランティア 国道252号六十里越雪わり街道

7月7日、只見町と新潟県魚沼市の「国道252号六十里越雪わり街道を愛する会」主催の清掃ボランティアが行われ、両市町から約90名が参加しました。只見町の宮淵から魚沼市の大白川間で行われた清掃は両側からスタートし、道路沿いに捨てられたゴミを回収していき、アイヨシの滝で合流しました。合流後は交流会が行われ、冷汁やおにぎりなどが振る舞われ、参加者は懇親を深めました。



▲景観を守るためにゴミを回収する参加者の皆さん

生活に欠かせない「水」の大切さを学ぶ 各小学校で上下水道施設を見学

7月、各小学校で水の大切さなどを学ぶ上下水道施設見学教室が行われ、それぞれ最寄りの施設を見学しました。見学では、上水道施設で生活に必要な飲料水の作り方を学び、下水処理施設では水をきれいにして川に流す水の循環を学びました。また、朝日小学校ではリサイクルセンターで汚泥を資源としたコンポストの仕組みなどを見学し、児童たちは環境への理解を深めました。



▲下水処理場で水の循環を学ぶ只見小児童の皆さん

戊辰戦争の真実に迫る

「奥羽越列藩同盟と加茂軍議」講演会

7月23日、河井継之助と只見・加茂の深い関わりを伝える「奥羽越列藩同盟と加茂軍議」講演会が只見振興センターで開催され、約100名が来場しました。

開催にあたり、主催者である加茂商工会議所の太田明会頭から、戊辰戦争から150年目を来年迎えるにあたり、講演会を小千谷市、会津若松市、米沢市に続き、今回只見町で開催した経過などが述べられました。

講演では、長岡市河井継之助記念館の稲川明雄館長から、越後における戊辰戦争の運命に深く関わった長岡藩士・河井継之助の歴史や、西軍により一度は落城した長岡城を奪還しようと越後の加茂に会津藩、米沢藩を始め奥羽越諸藩が集まり長岡城の奪還作戦を図った「加茂軍議」の意義などが説明されました。只見町では河井継之助の終焉の地とされていますが、新潟県側の戊辰戦争の歴史などが紹介され、来場者は戊辰戦争や河井継之助の歴史について理解を深めることができました。



▲戊辰戦争の歴史を伝える稲川館長

只見町ブナセンター

ブナセンター講座

「雪を味方につけた植物たち」

7月15日、植物と雪との関係をテーマにしたブナセンター講座が同施設で開催され、22名が参加しました。講師は植物の分類や進化と多様性について研究する首都大学東京・牧野標本館の加藤英寿氏で、雪が植物の生育に与える影響や日本海側を中心に分布する植物(日本海要素植物)と太平洋側に分布する対照種との形態的な違い、そして多雪環境に適応した植物の生理・生態などについて解説されました。ハイイヌガヤやエゾユズリハ、ユキツバキなど只見町では身近な植物が話題として取り上げられ、参加者は雪という只見町の最も特徴的な自然環境と植物の関係について理解を深めることができました。



▲講師の加藤英寿氏と参加者



▲日本海要素植物の解説を受ける参加者

自然観察会

「夏のブナ林で日本海要素植物を観察しよう！」

7月16日、日本海要素植物を観察する自然観察会が「蒲生集落・あがりこの森(ただみ観察の森)」で開催され、町内外から23名が参加しました。このブナ林の林床には、ユキツバキやエゾユズリハといった日本海要素植物が生育しており、ユキツバキの地面をはうような樹形、エゾユズリハの古い葉と新しい葉の色の違いなどを観察しました。前出の講師である加藤氏やブナセンター職員から日本海要素植物の生態や生育環境、あがりこの森における自然資源利用の歴史などについて説明を受け、参加者はブナ林の林床に生育する身近な日本海要素植物について学びました。

自然首都で農業を始めてみませんか 新規就農者を応援します!!

只見町では、新規就農者を積極的に支援しています。新規就農者が安心して農業の担い手になれるよう相談受付や助成制度を整えています。U・Iターン、未経験でもOK! 是非お問合せ下さい。

1. トマトでの就農の流れ(相談～面接)

◆就農相談

只見町の雪深い気候などを踏まえ、只見町で就農したいという方は、まず下記お問い合わせ先までご連絡ください。

◆就農者面接

南郷トマトの生産組合やJAなどと面接を行い、受入が決定したら次のとおりとなります。

- ・南郷トマト生産組合で研修受入農家を選定します。
- ・住居は、町で空き家を探し斡旋します。
- ・冬期間の仕事についても、相談を受けます。



2. トマトでの就農の流れ(研修～就農)

◆1年目/農業研修

- ・研修期間は4月から10月頃まで。組合から紹介された農家で南郷トマトづくりの研修を実施します。
- ・研修期間は研修費を助成します。
- ・研修期間中にトマト栽培用農地を斡旋します。

◆2年目/事業主として就農

- 1年間の研修でノウハウを学び、栽培用地や住居を確保して2年目は本格的に事業主としてトマト栽培が始まります。
- ・春にパイプハウスや灌水施設を設置。(助成制度有)
- ・その後は、仲間と相談しながら目標に向かって頑張ります!



3. 新規就農の助成制度

- パイプハウスや灌水設備などは、国・県の補助事業を活用しながら、ほぼ全額助成
- 苗・肥料などの資材について7割助成
- 借入れた農地代を5年間助成
- 農業次世代人材投資事業(旧青年就農給付金)
- 空き家(住居)の斡旋 …などなど

※年齢や同居親族、導入作物など条件があります。
詳しくは下記お問合せ先にご相談ください。

福島県南会津農林事務所では日帰り～1週間程度の農業体験プログラム「南会津ふるさとワークステイ事業」を実施しています。

只見町でも実施できますので、まずはちょっとやってみたいという方は、下記までお問い合わせください。

福島県南会津農林事務所企画部地域農林企画課
TEL:0241-62-5252 FAX:0241-62-5256
E-mail:kikaku.af05@pref.fukushima.lg.jp

広報ただみ診療所

朝日診療所
研修医

せき まさし
関 匡史



「脱水症に気を付けましょう！」

只見町の皆様、初めまして。7月から9月までの3ヶ月間、長野県から家庭医療を学びに朝日診療所に参りました、関匡史と申します。平成25年に自治医大を卒業後、長野県の地域医療に携わる中で福島県立医大の地域・家庭医療学講座とご縁があり、このような機会を頂きました。長野県の南端に位置する阿南町という地域の出身で、只見町と似通った部分も多いことから、こちらでの医療とそれを取り巻く環境、地域の特色などを学び、長野県での地域医療に活かす所存でございます。何卒よろしくお願い致します。

さて、今回は脱水症について紹介いたします。

◆脱水症になりやすい状況

脱水症は予防が大切ですので、次のような状況ではより一層注意しましょう。

- ・体調不良で食事量が減っている
- ・暑熱環境（冷房や換気のない部屋など）
- ・慢性の呼吸器疾患
- ・小さな子ども、認知症や脳卒中の後遺症（のどが渴いたことを感じにくい、飲水行動がとれない etc.）

- ・糖尿病（多尿になるため）

◆脱水症の症状

必ず出るわけではありませんが、大切なのは早めに疑うことです。

- ・軽度／めまい・ふらつき、立ちくらみ、口渇感
- ・中等度／頭痛、吐き気、嘔吐、尿の減少
- ・重度／痙攣^{けいれん}、意識がもうろうとする、幻覚、昏睡

◆脱水症かなと思ったら

- ・水分、電解質の補給
- ・涼しい場所で休養

水やお茶だけを沢山飲むのは、かえって逆効果なことも。発汗により塩分なども失われますので、ミネラルも補いましょう。OS-1、アクアサポートなどの経口補水液が市販されています。

◆豆知識

- ①脱水症により血液が濃くなる（ドロドロになる）と、脳梗塞やエコノミークラス症候群に代表される血栓症を起こしやすくなります。
- ②入浴後、飲酒後、起床時（睡眠後）は、意外と水分が不足します。
- ③心臓病や腎臓病の方は、水分や電解質の制限が必要な場合がありますので、かかりつけ医にご相談ください。

地域おこし協力隊として 只見町観光振興協力隊

vol.33

はしもと たくま
橋本 拓馬



「只見町の言葉」

「ニシャドッカラキタ？」

……ん？今なんて言ったんだろう。分からなかった。「どっからきた」は分かるが「にしゃ」ってなんだろうと思った。他にも「シナダ」、「ゴセヤケル」、「ネッカサスケネ」など会話に方言が混じると分からなくなる。同じ福島県（本宮市出身）でもこんなに違うのかと感じた。しかし1年も経つとそれなりに分かるようになってきたし自分でも方言を使うようになった。「休んでけやれ〜」「う〜ヤダ。めごくね」、「さす

けね〜」など頻繁ではないが会話に出る。なかでも只見弁で一番好きな方言は「クラブ」だ。最初にクラブを聞いた時は会津っぼの親戚か何かだと思った。ラーメン屋に違いない。しかし意味を聞いたらかモシカだった。何でクラブなのか。意味を聞いたが忘れてしまった。しばらく気に入ってクラブが頭からはなれなかった。こうして少しずつ方言を覚え使うことが只見の人になった感じがしてうれしい。2年後には只見の人に「にしゃ只見弁使いこなしてるな！」と言われるようになりたい。

町史

とっておきの話

277

只見町文化財調査委員会議長

飯塚 恒夫

いま残しておきたい只見とっておきの話 ④

南光社と菅家重二郎の活躍

明治・大正時代の只見地方は、蚕糸業が非常に盛んで、会津においても喜多方に次ぐ蚕糸業の先進地として注目されてきました。そのようになったのは「南光社」を設立し、只見地方の製糸業の発展に生涯をかけた菅家重二郎の先見的な実践と活躍があっただけで実現されたことを忘れてはならないと思います。

重三郎は、嘉永五年（一八五二）父喜重郎、母とめの長男として只見に生まれました。明治三年（一八七〇）に父が死亡したため、重三郎は十九歳で家督を継ぎ、若くして村の伍長・用係を拝命、同十八年には田島村外九八ヶ村



▲「南光社」を設立した菅家重三郎



▲南光社生糸荷造所（南光社1階、右から2人目が菅家重三郎）

連合会議員に当選し、郡制の実施とともに郡会議員となつて、明治三十九年まで努め、地方自治にも尽くしています。重三郎が育つた幕末期から明治にかけては、海外向けの生糸価格が高騰していたため、明治政府も殖産興業の主要部門として蚕糸業を奨励していました。只見地方でも年々養蚕熱が高まり、農家経済の重要な収入源となつていました。

当時只見地方の生糸は、座繰製糸が主であったため品質が悪く、生糸の販売では地方商人に買いたたかれていました。重三郎は、早くからこれらの課題に着目し、その改善の必要性を痛感し研究と実践にあたります。まず飼育面では、明治十七年若松・佐藤伝平氏の養蚕伝習所に学び、さらに伊達郡梁川・浅井徳右衛門・石井市左工門、保原の渡部源兵衛の諸氏を訪ね、飼育法とともに器械製糸の視察も行っていました。その成果は村の養蚕家とともに実践し、普及に努めています。

明治十八年、南会津勸業組合議員になると、製糸改良のために郡内各支部へ生糸揚返し場の設置を提案し議決されます。重三郎は率先して実践にうつし、翌十九年には、自分の所有地に共同揚返し場を設立。翌二十年には、水車による器械製糸場（五人取）を導入し、教婦として新潟県北魚沼郡よ

り工女を雇入れ、郡内初の器械製糸場を稼働させました。そしていよいよ重三郎は地方商人との軋轢を覚悟して販売の課題に取り組みます。明治二十一年単独自費で、信州・上州の製糸場をはじめ横浜の取引状況を視察し、構想を固めて帰村するや、戸長の長谷部保三郎をはじめ有志と図り、次の三項目の規約を基本とする「南光社」を設立し、社長となつて経営にあたります。

一、以後当地の製糸は器械製糸とすること
二、生糸は適法の共同荷造りとする
三、販売方法は、当地商人の手を經ず横浜へ直接搬出し委託販売とすること

南光社は、この年、石伏に水車の製糸場（三人取）を新設し、只見製糸場は五人取りに増設して発足させ、生産した生糸七梱を初めて横浜・渋沢商会に出荷しました。その価格は「地方売りヨリ百匁二付一円以上ノ商値ニ売却セリ」と、目論見どおり好調にスタートをきりました。

その後、南光社は経営が安定



▲南光社は写真中央の車庫付近にあった（只見字沖）

せず数々の困難に直面します。しかし、重三郎の粘り強い努力と指導力によって、着実に成果を挙げ、数年にして只見が蚕糸業の先進地として各方面から注目されるようになるのです。この南光社の成功事例が、その後各村に製糸工場が導入される契機となり、奥会津地方の蚕糸振興に大きく貢献することになりました。

重三郎は、「履歴書付記」に「南光社ハ絶対ニ或ル個人ノ利益ヲ企図セス、地方農家一般ノ利益ヲ唯一ノ目的トシテ組織一したと記しています。そこには南光社の理想とした協同組合的な理念が根底にあります。重三郎の先進性と只見人の持つ進取の気性によって一大養蚕業が築かれたのだと思います。



町民文芸

只見短歌会 六月詠草

朝茶の味変りはないが孫の電話声聞きしあと尚更うまし
馬場 八智

雨のまま暮れて行く日の夕飯は早き時刻に密やかに済む
小倉 キミ子

歌会終へし峡の列車の窓に浴ひ今を盛りに栗の花咲く
古川 英子

突然の伯母の葬儀の挨拶にメモ紙歪み全ては語れず
新国 由紀子

足腰の痛み言ひつつ畑の辺に憩ふ友らと話の尽きず
渡部 ゆき子

車窓より眺む山並新緑の眩しき中に藤も真盛り
関谷 登美子

朝々に植え田見廻る老夫は浸せし指で水温をみる
目黒 富子

猛暑日と雨降り続く天候に草の丈伸び畑の緑映ゆ
渡部 ヨリ子

臥せしまま黙して見上ぐ点滴のひと粒ひと粒がわが身養ふ
新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会 七月例会

豪雨ありSNSで知る安否
油照りスマホ片手に颯爽と
信

あじさいの雨待つ気配風を見る
梅雨冷ややつれてもどる逃亡犬
味代子

風知草そよともせず池の端
水害のかなしみ残し梅雨あけぬ
弘子

体験の子等に蓑笠諸を挿す
地底より吹き出すがごと梅雨出水
恒夫

縁側に落剥くははと話すごと
青嵐や一村五十戸タムの里
礼

汗止めの手拭しっかり葱植うる
這い這いの子に開けたる夏座敷
一穂

夏一夜ジャズの調べの響きかな
炎天下飛び石日影歩み行く
修一

降り続く豪雨の畑に虫の声
雨あがり畑の青菜の生え揃う
敦子

山揺すり家鳴り振動夏嵐
夏の月産院に満つ呱呱の声
吉児

刈草に足を取られる暑さかな
露の葉もいきれ萎れる休耕田
さちを



目黒十一 指導

今月の お知らせ

電話番号

総務課		
総務係	財政係	☎82-5210
総合政策課		
地域振興係	広報広聴係	☎82-5220
町民生活課		
税務係		☎82-5110
町民係		☎82-5100
保健福祉課		
保健係		☎84-7005
福祉係		☎84-7010
農林振興課		
農政係	林政係	☎82-5230
観光商工課		
観光係	商工係	☎82-5240
環境整備課		
地域整備係		☎82-5270
生活環境係		☎82-5280
会計室		☎82-5120
議会事務局		☎82-5300
農業委員会		☎82-5230
教育委員会		☎82-5320
学校給食センター		☎84-7180
只見保育所		☎82-2219
朝日保育所		☎84-2038
明和保育所		☎86-2249
朝日診療所		☎84-2221
(歯科)		☎84-2612
こぶし苑		☎84-2101
只見振興センター		☎82-2141
朝日振興センター		☎84-2111
明和振興センター		☎86-2111

試験

社会福祉法人南会津会 職員採用候補者試験

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等を運営する社会福祉法人南会津会では、職員採用候補者試験を次により行います。

●採用予定職種・採用予定人員

- ①看護職員 3名
- ②介護職員 4名
- ③事務員 1名

●採用予定年月日

平成30年4月1日

●職務内容

- ①看護職員Ⅱ診療の補助、看護、健康管理、保健衛生等の業務
- ②介護職員Ⅱ利用者の食事・入浴・排せつ介護等の業務

※勤務は交替制(夜勤有り)

※勤務は交替制(夜勤有り)

※事務員Ⅱ事務に関する業務

●受験資格(次に該当する者)

- ①普通自動車二種免許取得者
又は、平成30年3月31日まで
に取得見込みの者
- ②【看護職員・介護職員】
平成30年4月1日現在
60歳未満の者
- ③【事務員】
平成30年4月1日現在
50歳未満の者

①普通自動車二種免許取得者

又は、平成30年3月31日まで
に取得見込みの者

②【看護職員・介護職員】

平成30年4月1日現在
60歳未満の者

【事務員】

平成30年4月1日現在
50歳未満の者

③次の資格を有する者

- ・看護職員は、保健師助産師看護師法に定める看護師免許又は准看護師免許の取得者(看護師養成施設又は准看護師養成施設を平成30年3月までに卒業する資格取得見込者を含む。)
- ・介護職員及び事務員は、特に資格要件はありません。

※次の該当者は受験できません。

- ・日本の国籍を有しない方
- ・禁固以上の刑に処せられた方

●試験の方法・日時・場所

▽1次試験

一般教養試験(高校卒業程度)

日時/9月17日(日)

場所/南会津町田島あたご館
(旧田島町中央公民館)

▽2次試験(1次試験合格者)

作文試験・面接試験

期日/10月22日(日)

場所/南会津町田島あたご館

●試験結果の発表

1次試験の結果は、10月上旬に
本人に通知します。

●受験申込手続について

当法人の施設などで交付する申込み用紙に必要事項を記入し、6ヶ月以内に撮影した本人の写真を貼り、受験資格を確認するため、受験申込用紙に資格を証する免許証などの写しを添付して、南会津会本部事務局(特別養護老人ホーム田島ホーム内)に提出して下さい。

※申込用紙は、南会津会の本部事務局または各施設で交付します。(郵送による請求もできません。詳しくはお問合せ下さい。)

▽こぶし苑

(只見町大字長浜字久保田1)

●申込受付期間

8月1日(火)～25日(金)
※執務時間中に限りです。郵便による申込用紙提出は、8月23日(水)までの消印のあるもの限り受け付けます。

●申込用紙の交付先

▽南会津会本部事務局「特別養護老人ホーム田島ホーム内」
(南会津町永田字風下3-1)

▽只見ホーム

(只見町大字長浜字久保田1)

☎0241(63)1118

▽あさくさホーム

(只見町大字長浜字久保田1)

☎0241(84)7550

▽こぶし苑

(只見町大字長浜字久保田1)

☎0241(84)7110

▽こぶし苑

(只見町大字長浜字久保田1)

☎0241(84)2101

▽問合せ先

南会津会本部事務局

☎0241(63)1118

8月25日までに
納めましょう

税 今月の納期

8月25日までに

納めましょう

- 町県民税(2期)
- 国民健康保険税(2期)
- 農集排使用料(8月分)
- 介護保険料(2期)
- 後期高齢者保険料(1期)

只見おもしろ学クイズ

今回の只見おもしろ学クイズは、今月の「只見線特集」にも関わる問題です。

(問題)

只見線の小出から会津若松まで全線開通した年はいつですか。

- ①昭和43年
- ②昭和46年
- ③昭和49年

(答えは27ページです)



ブナリン

平成29年度福島県学校歯科保健優良校表彰 町内全ての小・中学校が受賞！

6月1日、県歯科医師会館（福島市）で表彰式が行われた「平成29年度福島県学校歯科保健優良校表彰」において、朝日小学校が優秀賞、只見小学校・明和小学校・只見中学校が奨励賞をそれぞれ受賞しました。

この表彰は、福島県教育委員会・県歯科医師会・福島民報社が主催し、学校の保健歯科活動を通して児童・生徒の歯が健康に守られ、その取り組みが認められた学校に贈るものです。

町内全ての小中学校が受賞したのは今回で3年連続となり、日頃の虫歯予防活動の取り組みが成果として表れました。



▲優秀賞の受賞で表彰式に出席した朝日小学校の小林校長(右)、生徒代表6年の三瓶創大(中)くん、養護教諭の清水先生(左)

第50回記念全会津少年剣道大会 只見剣道スポーツ少年団が活躍！

7月30日、シモン旗・会津坂下剣友会長杯争奪「第50回記念全会津少年剣道大会」が会津坂下町の坂下南小学校体育館で行われ、只見剣道スポーツ少年団が好成績を収めました。結果は次のとおりです。

- | | | |
|----------------|-----|------------|
| ◆女子4年生以下の部(個人) | 準優勝 | 吉津知巴さん(4年) |
| ◆女子団体2部 | 優勝 | 只見剣道スポ少 |
| ◆男子団体1部 | 3位 | 只見剣道スポ少A |
| ◆女子団体1部 | 3位 | 只見剣道スポ少 |



▲好成績を収めた只見剣道スポーツ少年団の皆さん

町長スケジュール (7月分)

- | | |
|---|---|
| 1日 只見線シンポジウム(金山町) | 19日 東北電力(株)副社長就任挨拶、
只見高等学校海外短期留学出発報告式 |
| 3日 会津総合開発協議会役員会(会津若松市)、
東邦銀行只見支店長歓迎会(町内) | 20日 国道289号線建設期成同盟会総会及び事業説明会(東京都) |
| 4日 ティーエヌアイ工業只見工場長就任挨拶、
国道289号線建設期成同盟会会長・副会長会議(東京都) | 21日 福島県企画調整部長表敬訪問、総合教育会議 |
| 5日 只見町土地改良区理事会・臨時総会、
只見ユネスコエコパーク連絡調整会議、定例庁議 | 22日 からむしの織の里フェア(昭和村) |
| 6日 南会津地方町村議会議員大会(下郷町)、
電源開発(株)水力発電部長就任挨拶 | 24日 一級河川只見川河川整備促進期成同盟会による東北地方整備局及び中央要望(仙台市、東京都) |
| 9日 サンドバレーコートオープニングセレモニー式典(町内) | 25日 福島県総務部長表敬訪問、政策調整会議 |
| 10日 福島県町村長交流会・中央研修会(～11日東京都) | 26日 只見町議会7月会議 |
| 14日 政策調整会議、
JR只見線利用促進事業只見線熱血対談会(町内) | 27日 会津総合開発協議会本省庁等要望(東京都) |
| 15日 JR只見線利用促進事業「只見線のうた」発売記念ライブ
in只見(町内) | 28日 国道401号改良整備促進期成同盟会総会(東京都) |
| 16日 会津鉄道(株)開業30周年記念式典(南会津町) | 29日 柏まつり(千葉県柏市) |
| 18日 電源開発(株)東日本支店長来庁 | 30日 沼ノ平総合学術調査 調査団委嘱状交付式及び懇親会(町内) |
| | 31日 阿賀川河川事務所長来庁、国道289号八十里越地点開発促進期成同盟会総会及び事業概要説明会等(町内) |

町民の消息

(6月26日～7月25日届出分)敬称略

■お誕生おめでとうございます

吉津 綾世 (男/明・誠子) 杉 沢
 梁取 夏希 (男/武・沙希) 大 倉
 馬場 七羽 (女/諒・あい) 只 見
 河原田 陽翔 (男/祐太・真世) 梁 取

■ご結婚おめでとうございます

栃木県 田村 健♡小沼あゆみ 只 見
 只 見 伊藤 崇史♡若松 彩香 小 林

■おくやみ申し上げます

馬場 正毅 85歳 蒲 生
 三瓶 利郎 91歳 叶 津
 菅 家 サチ子 82歳 黒 谷

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成29年7月1日現在

人 口 4, 333 (－ 5)
 男 2, 129 (－ 3)
 女 2, 204 (－ 2)
 世帯数 1, 866 (－ 3)
 高齢化率 45.30%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 3 転出 6 出生 3 死亡 5

あとがき

▽7月18日に発生した豪雨は、6年前の新潟・福島集中豪雨を思い出させるような大雨となりました。1時間の雨量が町内での観測史上最大となる88.5ミリを記録し、屋根に叩きつける強い雨音がその雨量を感じさせ、多くの方々が不安にされました。
 今も豪雨による災害は、全国各地で発生しており、「いつ・どこで」起こりうるか分からない状況です。只見町も平成23年から6年後、今回の記録的な大雨となりました。常に災害が起こることを想定して、防災グッズの備えや避難場所の確認などを行う必要を改めて感じました。

(三瓶)

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう

1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう

1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう

1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう

1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

町民憲章

只見振興センター生涯学習推進員
浅野リサ

只見振興センター
図書室 ☎82-2141

おすすめ新着図書

★思わず話したくなる究極のディズニー



みっこ/著(KKベストセラーズ)

人気ディズニーブロガー・みっこ氏が、十数年にわたって東京ディズニーランド・東京ディズニーシーに通う中で見つけた、思わず誰かに話したくなる面白いこだわりをたっぷり紹介。

アトラクションに乗ったり、パレードやショーを観たり、ショッピングをしたり、そんな王道の楽しみ方もいいですが、パークのなにげない風景を眺めるだけでも楽しくなる、そんな新しい楽しみ方をご提案!ディズニーが苦手な人でも興味がわいてくる、そしてディズニーが好き人はもっと大好きになる一冊です。

★Life ライフ



くすのきしげのり/著(瑞雲舎)

ある冷たい風の吹く日、一人のおばあさんが町外れにある『Life』という小さなお店にやってきました。『Life』は、お店と言ってもなにかを売っている普通のお店とは違います…。

冬の間このお店にたくさんの人が訪れました。そして春になって、すてきな奇跡が起こりました。人は誰かのかかわりの中で生きているのだ、ということを伝える感動の絵本。

1 ページ、1 コマに温かい何かを感じずにはいられない作品です!

★その他にも図書室にはたくさんの本が置いてあります。リクエストも随時受付けていますので、ぜひご利用ください。



只見おもしろ学の
答え合わせ!!

25 ページクイズ答え
②昭和46年 だよ!!
詳しくはガイドブック
P166 ~ 167 きみてね!

フナリン

サシバ (学名: *Butastur indicus*)

[タカ目 タカ科]



▲電線にとまるサシバ

この時期、山間から「ピックイー ピックイー」と明瞭な鳴き声が聞こえてきます。この声の主は、サシバです。サシバは、只見町では夏鳥で、4月に東南アジアやインドネシアから渡って来て、繁殖をし、8月下旬にはまた南へと渡っていきます。毎年、同じ個体がだいたい同じ場所に戻ってくることが知られています。鳴き声は、渡来直後の4月頃にもよく聞こえますが、ヒナが巣立ち渡りの前の7月下旬から8月にかけてもよく聞くことができます。

サシバは、カラスと同じかひとまわり小さいくらいの鳥ですが、トカゲやカエル、ネズミなど小動物を捕食する猛禽類の1種です。採食場所となる水田や耕地などの開けた環境と山麓との境目付近を好み、営巣することが知られています。他の猛禽類との識別特徴は、基部が黄色く先が黒いくちばし、頭部から上面にかけて灰褐色の羽色、胸の褐色の横縞、そして大きさです。飛翔時は、下面が白っぽく見え、白いのどに黒の縦線が入っているのがよく見えます。

只見町ではよく見かける鳥ですが、環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、福島県でも準絶滅危惧種となっています。これは、サシバが好むような里山環境が全国的に減少していることによります。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

企画展示

只見ユネスコエコパーク関連事業・只見自然環境基礎調査報告
「只見の湿原—その生態と歴史」

期 間: 7月29日(土)~11月20日(月)

場 所: ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー